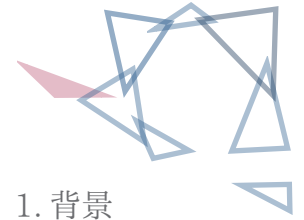


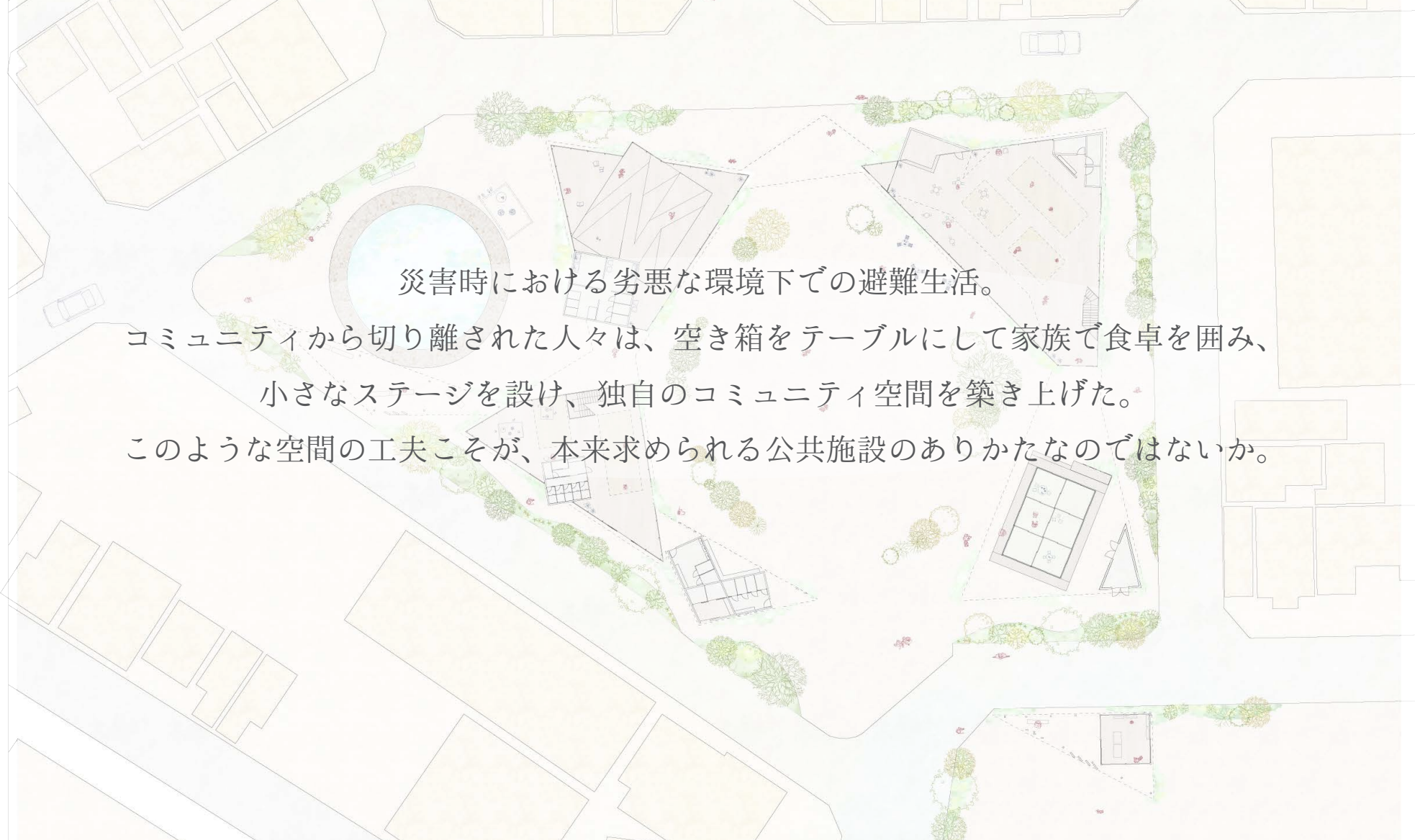
セイイ替え
～日常と災害を織り、地域を紡ぐ。～



back ground - question



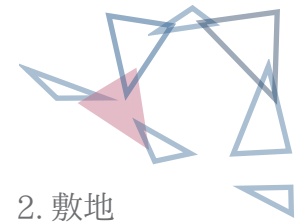
1. 背景



災害時における劣悪な環境下での避難生活。

コミュニティから切り離された人々は、空き箱をテーブルにして家族で食卓を囲み、
小さなステージを設け、独自のコミュニティ空間を築き上げた。
このような空間の工夫こそが、本来求められる公共施設のありかたなのではないか。

site - 東日暮里公園

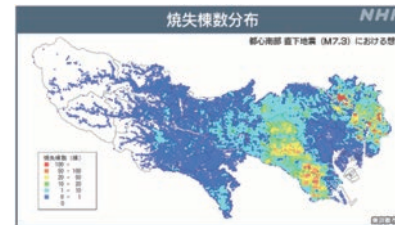
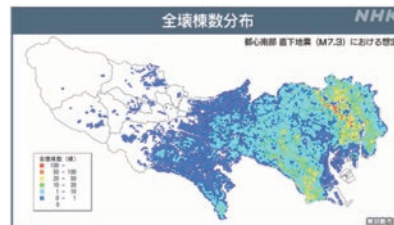
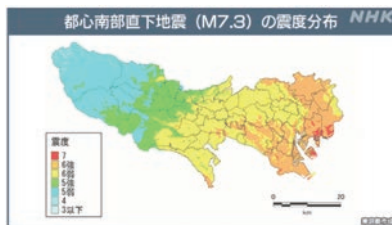


敷地の選定

地域の繋がりが希薄となり、人口の集中と避難所不足が課題となる都心。
首都直下地震の被害想定から、建物の全倒壊数分布、消失棟数分布、震度分布、避難経路から、それぞれのリスクの高い地域から近く、避難所が遠いエリアから選定した。

東京都の現状

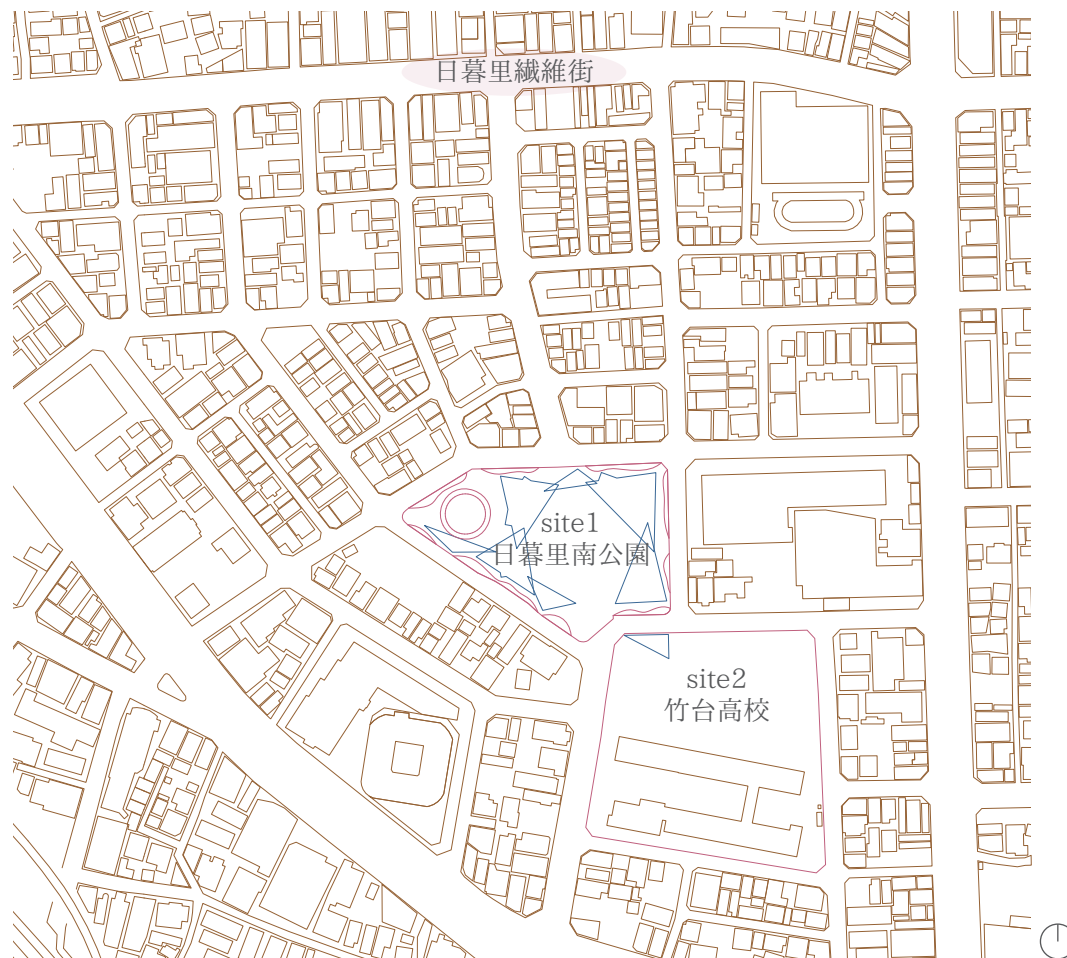
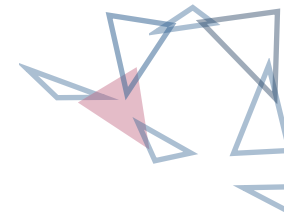
○首都直下地震の被害想定



○避難所の不足数



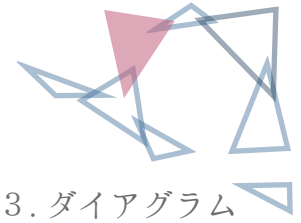
layout drawing



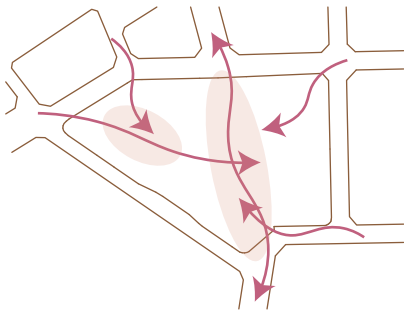
東日暮里公園

ものづくりの街・日暮里の繊維街のそばに位置するこの公園では、地域の子供たちから休憩するサラリーマン、外国人など、多様な人々が過ごす。また、貯水槽があり、災害時には飲料水を供給する拠点として活躍する。隣接する高校との連携やコロナ渦により終了した日暮里マルシェの復興など、災害対策のみならず地域のつながり拠点となるような公共施設を提案する。

diagram - 地域を繋ぐハギレの建築

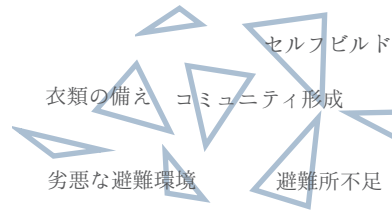


a. ボリューム



多様な生活動線のはざま

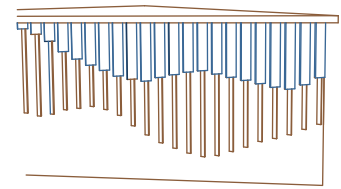
b. 機能



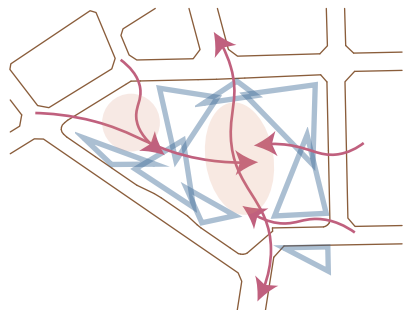
不完全な要素

c. ファサード

2層のレイヤーから成る重ね着をした建築



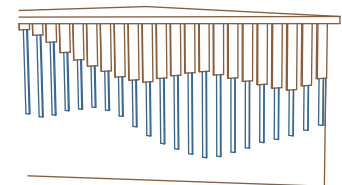
密度の高い
プライベートな上層部



多方向から迎え入れる形



組み合わせて完全となる

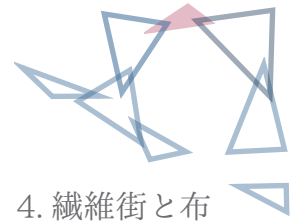


密度の小さい
パブリックな下層部

～日常と災害を織る～

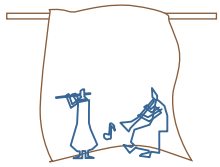


diagram - 布による効果

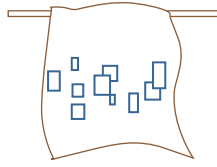


a. 平常時

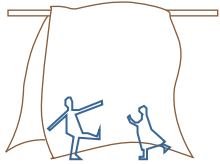
—小さな材料で大きな作品に—



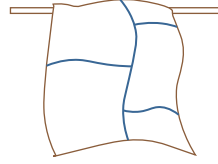
ステージ



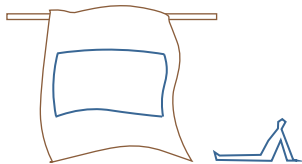
作品展示



包み込む広場



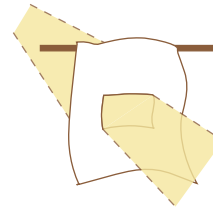
パッチワークによる
目印と多様な空間



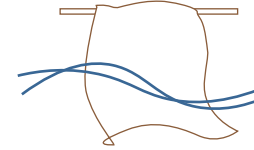
スクリーン

b. 災害時

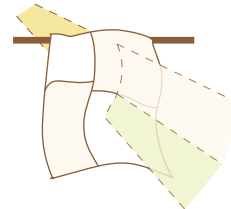
—身の回りの最小限のものを最大限に生かす—



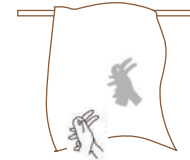
自由な開口で光を取り込む



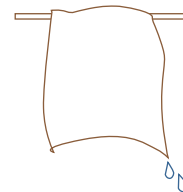
風を通し換気をする



素材をかえてほどよい光に

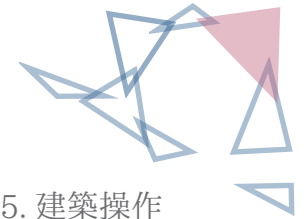


影絵で子供をあやす



水に濡らして加湿する

self-build



5. 建築操作

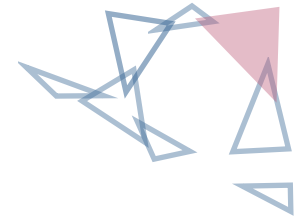
a. 布 × 天井



たらず布をあげることで大空間となる
アクティビティに対応して空間の大きさを変化させる



布を下まで下げること個人のエリアが生まれる
布に囲まれた温かみのある避難所に



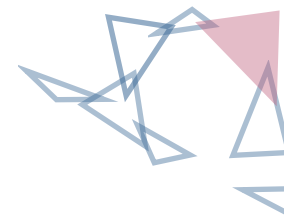
b. 布 × 床



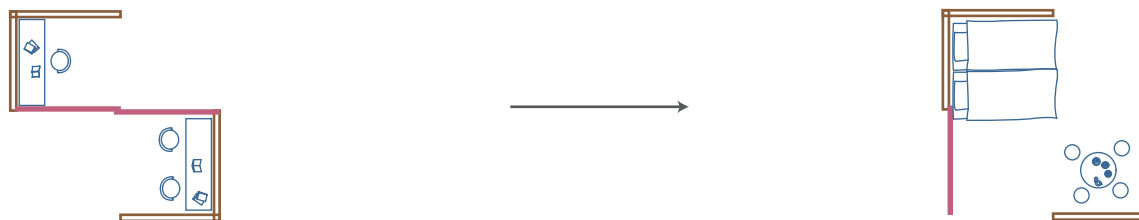
段差でゆるやかに仕切る



空間を仕切る段差は災害時の生活エリアに
玄関と縁側空間を生み出し、衛生面とコミュニティ形成に役立つ



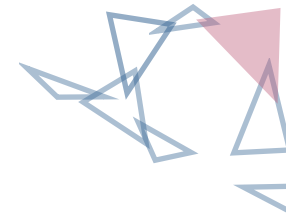
c. 可動壁



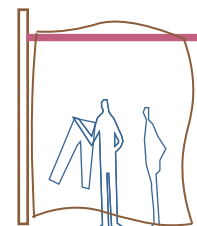
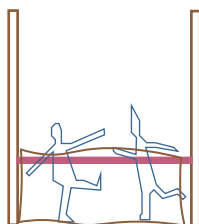
2m×2m のグリッドからなるブース
集中して勉強する仕切り



可動式の壁の操作により、
2m×2mから4m×4mのグリッドに変化する
家族で生活するエリアに変化する



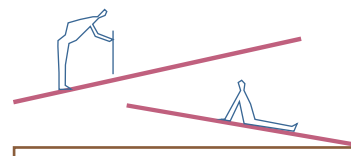
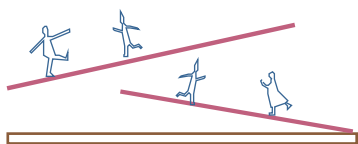
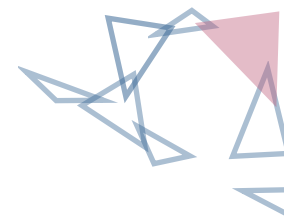
d. 梁 × 布



横軸の部材の高さを変え、布をかける位置を変化させる
子供の仕切りと大人の仕切り

高さのある仕切りにより生活空間を作り出す
災害時にプライバシーを保つ高さ

e. 床



スロープ状の床は子供の遊び場となり、
寝っ転がって楽しむエリアに

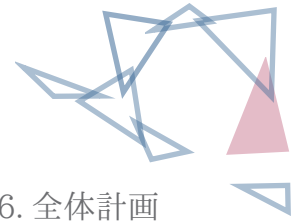


ななめの床の子供の遊び場は災害時にはスロープとなる
寝転んで楽しんでいた子供も安心して昼寝をする

～地域を紡ぐ～



plan



6. 全体計画



プレイルームの勾配は、子供が遊び寝転がる角度であり、災害時にはスロープの役割を果たす。

繊維街

プレイルーム

授乳室
親子トイレ

カフェ・展示室

布を利用した空間の仕切り方により
カフェの使い方や展示方法が変化する

広場では日暮里マルシェが再開する。
災害時には炊き出しのための広場になる。

じゃぶじゃぶ池

東屋

人々の憩いの場となる
じゃぶじゃぶ池の継承。

多目的室

公園の人たちから見守られる
和室には高齢者が避難する

多目的室は布の操作によって
ゆるやかに仕切る。

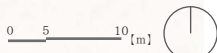
W.C.

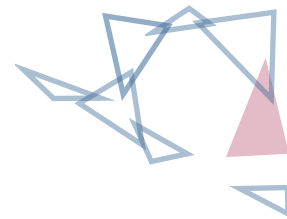
既存の貯水槽には飲料水が蓄えられ、
隣接する高校には生活用水が貯められる。
災害時には展示室が水の受け渡しの拠点となる。

展示室

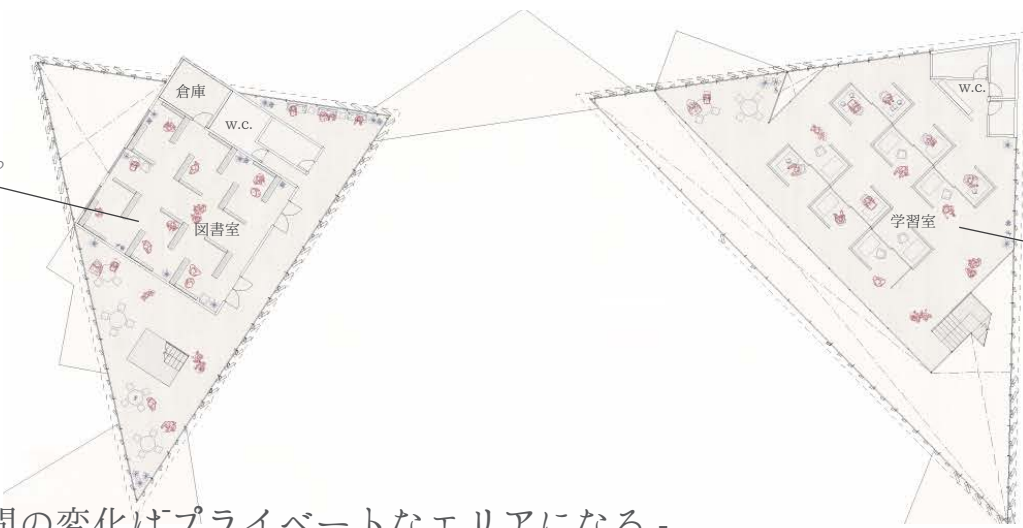
高校

1 F - 布による操作はパブリックなエリアになる -





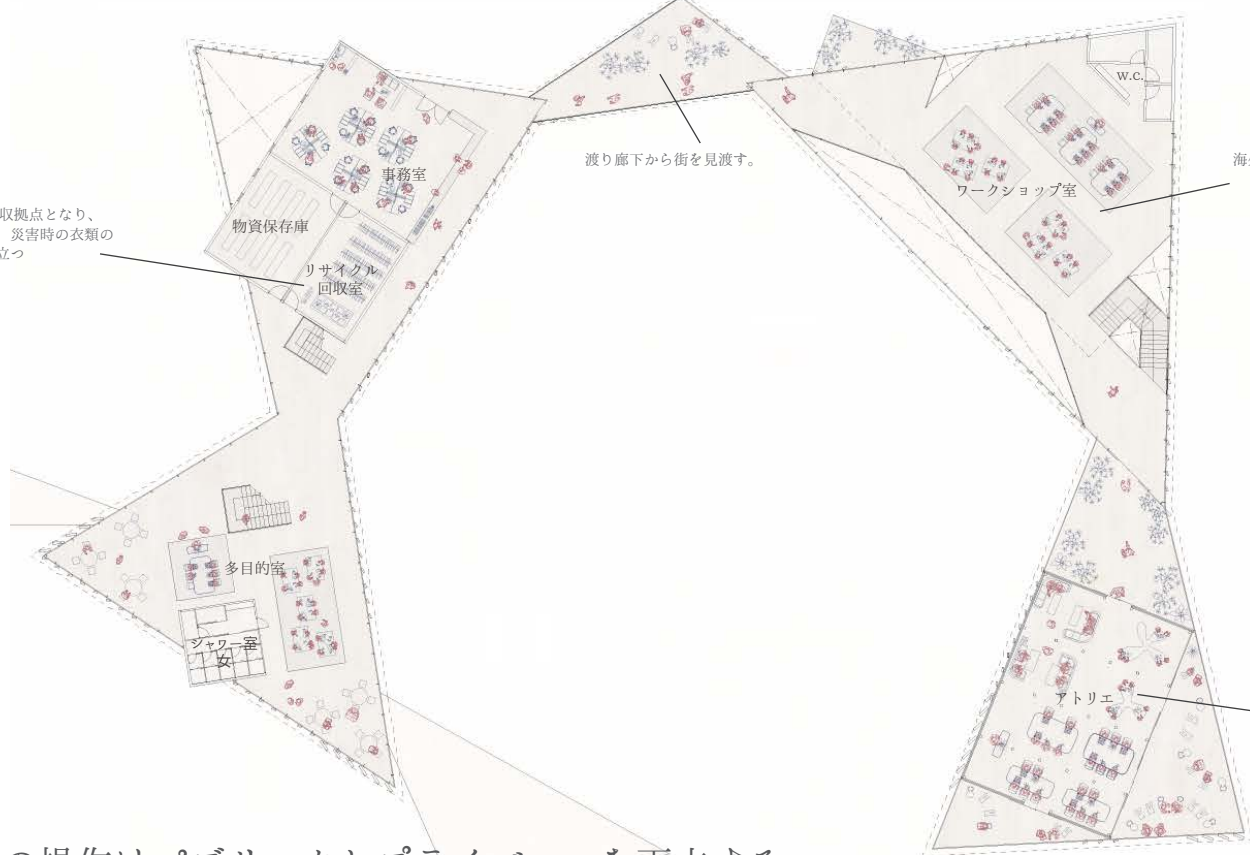
静かに個人で過ごすエリアから
大空間まで変化する。



個人で勉強する学習ブースは操作によって
グループで学ぶ場所、災害時には家族で生活する
エリアへと変化する。

3 F - 壁の操作による空間の変化はプライベートなエリアになる -

衣類のリサイクル回収拠点となり、
ものづくりや建築操作、災害時の衣類の
備えに役立つ

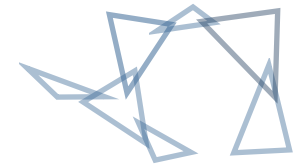


渡り廊下から街を見渡す。

海外の人が多く住む街で
語学教室を開く

アトリエは子供でも仕切れる
高さの操作を。

2 F - 布+部材の操作はパブリックとプライベートを両立する -



6. 全体計画

パブリックとプライベートの濃度は 災害の経過時間に応じて変化する

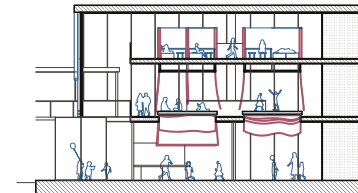
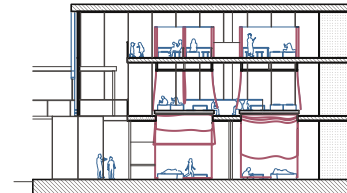
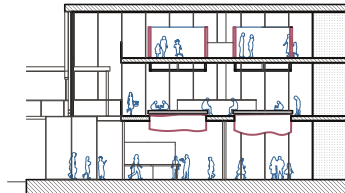
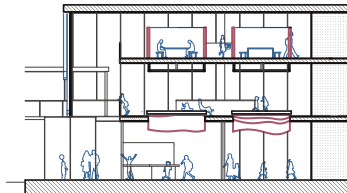
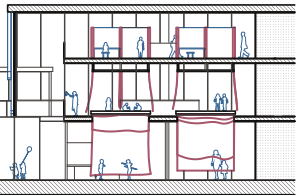
平常時(閉じた空間)

平常時(開いた空間)

災害時(初期)

災害時(中期)

災害時(最終期)

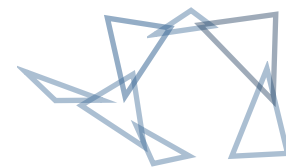


通常時の活動を豊かにする、開いた空間と閉じた空間

災害直後は施設全体が開かれ、
大人数が避難する空間となる

閉じる操作によって空間を仕切る
ことで家族や女性、要介護者等
でエリア分けを行う

建物低層部は開かれ、徐々に公共施設
としての使われ方に戻りつつ、建物上
層部では避難生活を続ける人が過ごす



7.まとめ



セナイ替え
～日常と災害を織り、地域を紡ぐ。～

